

03

アーチルの役割機能と 関係機関との連携による地域支援

1. 発達相談支援センター(アーチル)について

アーチル発達障害基礎講座 第二部①

アーチル発達障害基礎講座(初任支援者向け) 第二部

アーチルの役割機能と 関係機関との連携による地域支援

南部発達相談支援センター 成見憲介

アーチル発達障害基礎講座(初任支援者向け) 第二部

動画の流れ(3本立て)

- 1 発達相談支援センター(アーチル)について
- 2 アーチルの相談の現状と課題
- 3 地域での発達支援充実に向けた関係機関との連携

アーチル発達障害基礎講座(初任支援者向け) 第二部

1 発達相談支援センター(アーチル)について ～ 生涯ケア・将来の自立に向けて ～

発達相談支援センター(アーチル)とは

- 発達障害のある本人とその家族を対象とした
仙台市直営の相談機関

本人・家族とともに



- ・発達相談(療育)
- ・地域での相談・支援

地域・市民とともに



- ・市民への普及・啓発
- ・地域との連携・協働

- 「アーチル」という愛称は「アーチ(橋)」と「パル(仲間)」をかけたものです
障害のある方やその家族と地域の様々な方との「架け橋」になるようにとの願いが込められています

沿革・機能

乳幼児(0歳～就学前)

学齢児(小1～18歳)

成人(18歳以上)

昭和53年度

心身障害者相談センター

早期出会い・生涯ケアを
目指して設置

平成元年度

児童相談所

更生相談所

政令市となり、児童相談所と
更生相談所に機能を引継ぎ、
発展的解消

平成14年度

発達相談支援センター(アーチル)

【再統合＋機能強化】

対象者の年齢、知的障害の
有無に関わらず、発達障害
児者を支援できるよう、
3つの機能を持たせ、発達相
談支援センター(アーチル)を
設置

3つの機能

① 児童相談所の障害児相談、判定等の業務

② 知的障害者更生
相談所の専門相談

③ 発達障害者支援センターの専門相談

【機能拡充】

平成24年度

北部・南部発達相談支援センター

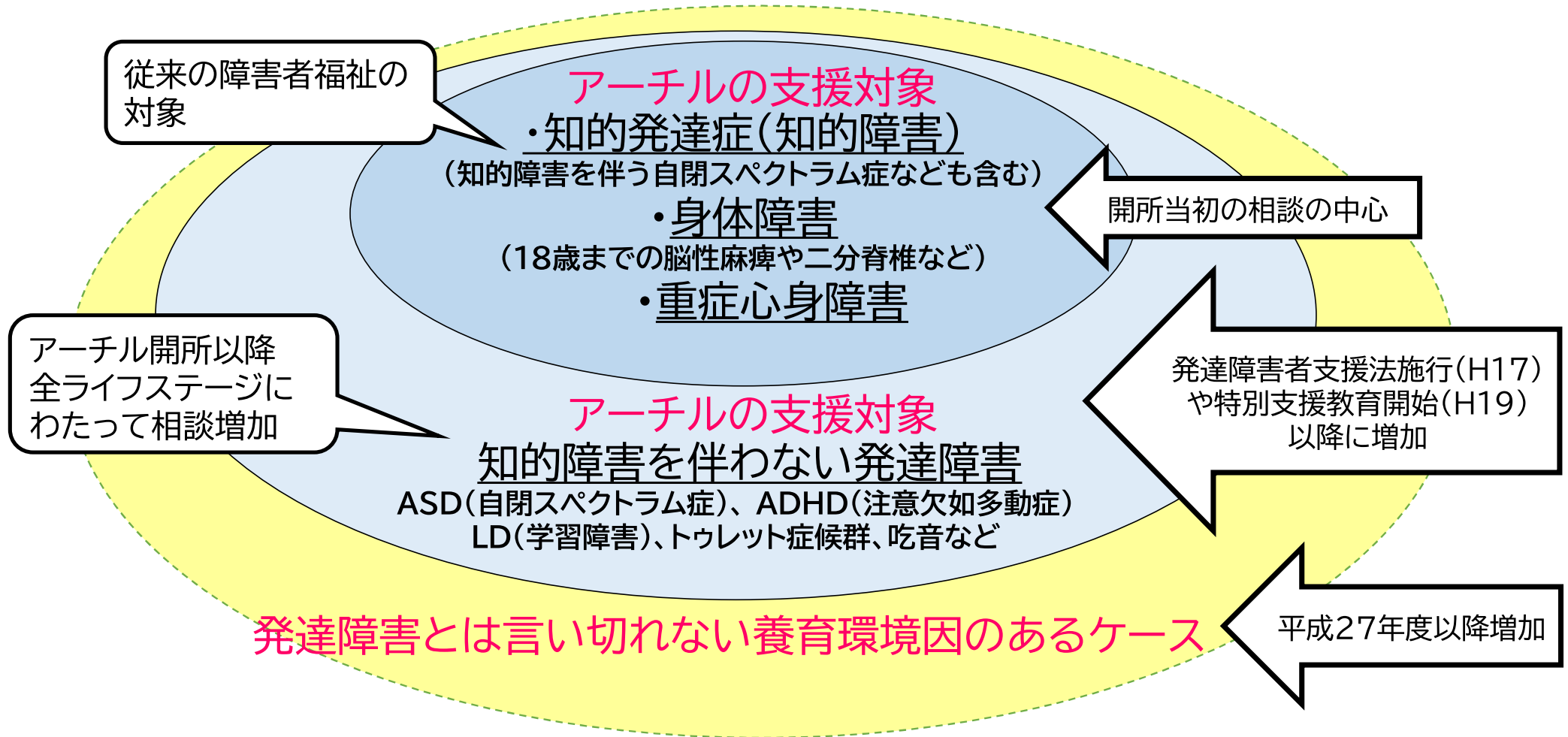
相談件数の増加に対応する
ため、南北2館体制に増設

平成30年度

④ 診療所機能(保険診療)

常勤医(2名)の配置

相談につながる層の広がり



アーチルの組織



北部アーチル
(平成14年4月開所)

場 所: 泉区泉中央
担当区: 青葉区
宮城野区
泉区

総務係

企画調整係

乳幼児支援係

学齢児支援係

成人支援係

仙台市(令和8年度)
政令指定都市(5区)
人口 約109万人



職員数(再任用・会計年度任用含む)
北部 88名・南部 55名

医師(南北兼務※)
常勤 2名・非常勤 18名



南部アーチル
(平成24年1月開所)

場 所: 太白区長町南
担当区: 若林区
太白区

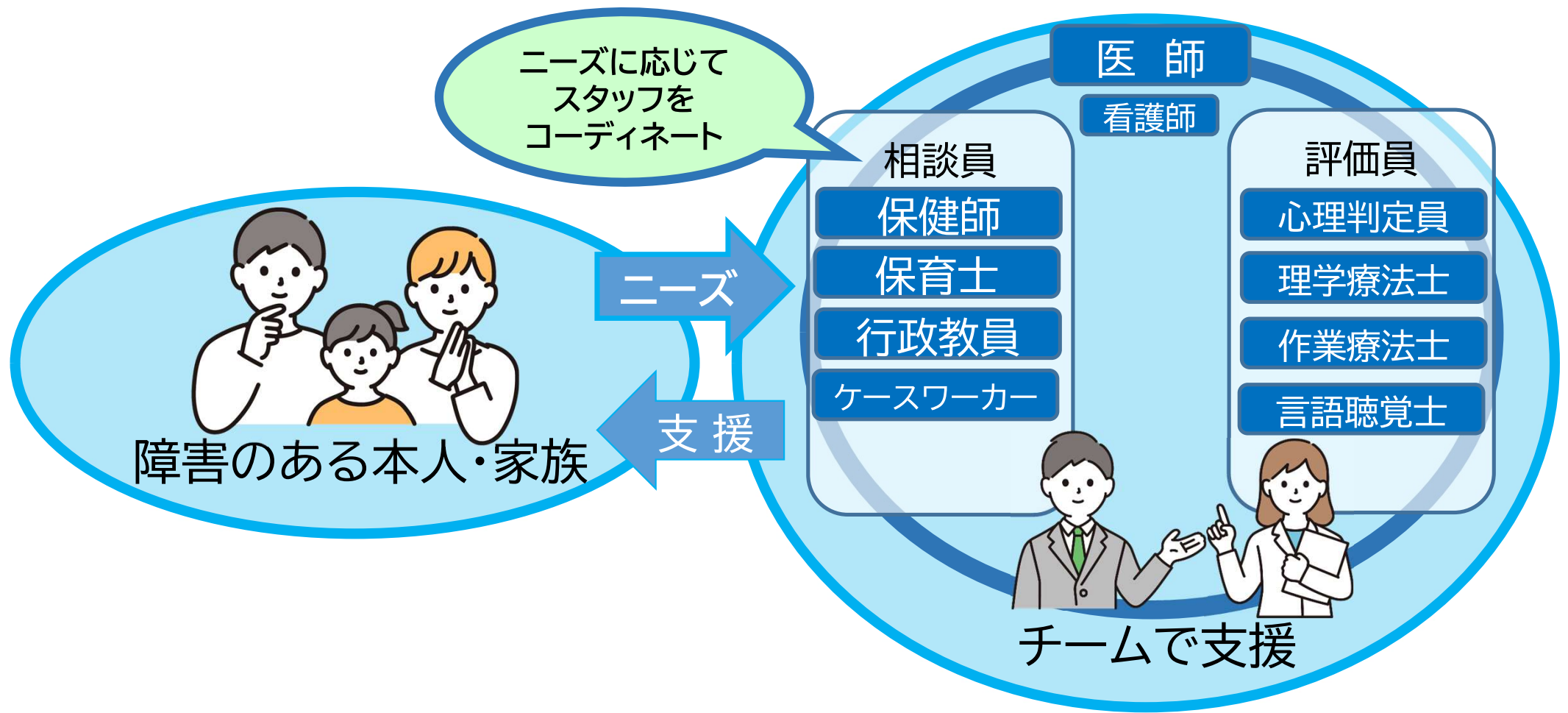
総務係

乳幼児支援係

学齢児支援係

成人支援係

「チーム・アプローチ」による相談支援

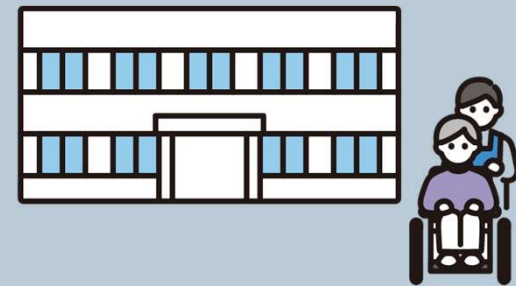


アーチルのおもな業務

相談支援



施設支援



普及啓発



ネットワーク構築



アーチルの理念 （心身障害者支援センターより継承）

発達障害のある方が健やかに育ち、
地域で生き生きと暮らせるために

発達に心配がある
本人・家族との

早期出会い

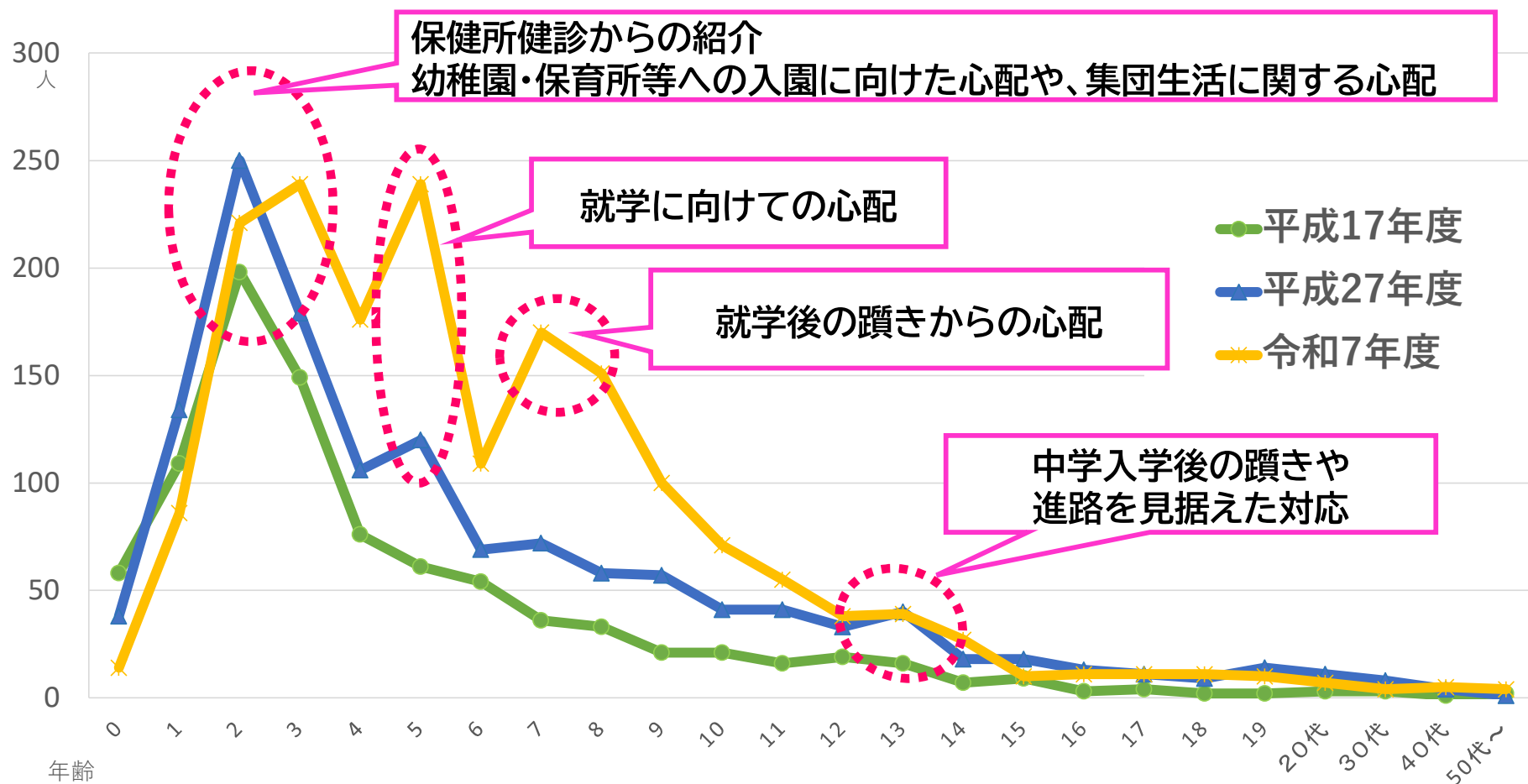
乳幼児期から
成人期まで一貫

生涯ケア

関係機関との連携
普及・啓発

地域生活の支援

新規(初回)相談件数の年齢別推移



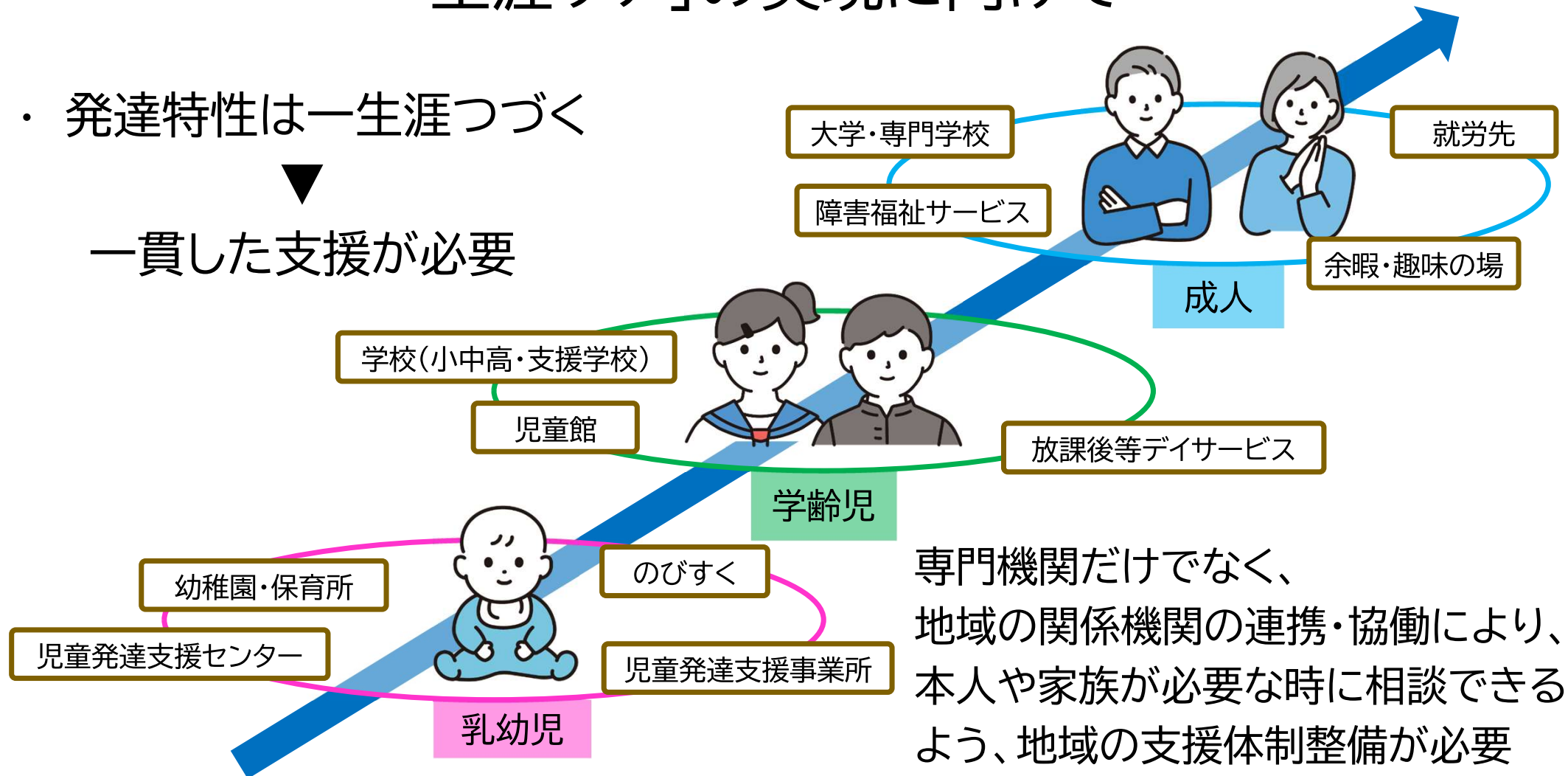
※20代～50代の各年代の数値は、各年齢の平均値

「生涯ケア」の実現に向けて

- 発達特性は一生涯つづく



一貫した支援が必要



成人期の「自立」と「社会参加」が目標

・「自立」とは

自分の望む生き方を自分なりに決定し、
必要に応じて、周りの手助けももらい
ながら実現していくこと

自立

社会参加

成人

自信が持てない

人と接するのが不安…

集団がこわい

意欲がわからない

- ・ 成人期の「自立」と「社会参加」を実現するためには、
「二次的な問題」の予防が重要

行動障害への理解と支援について

- ・ 行動障害(強度行動障害)とは

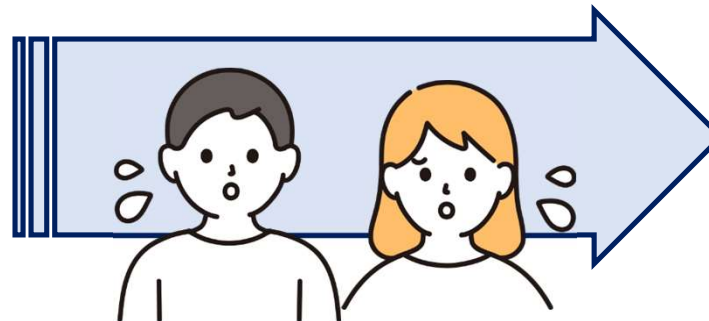
本人や周囲に大きな影響を与える行動が高頻度で起こるため
特別の支援を必要とする状態



本人の障害特性と環境・支援の不適合による二次的な問題

障害特性理解の難しさ

- ・ 特性に合わない環境や支援の提供
- ・ コミュニケーションの苦手さ等がある
- ・ 本人のストレスの原因が分かりにくい など



望ましくない行動が定着

- ・ 自分や他者を傷つけてしまう
- ・ 食べられないものを口する
- ・ 危険な飛び出し
- ・ 強すぎる「こだわり」行動 など

行動障害への理解と支援について

【必要な支援】

- ①行動障害が心配される方への予防に向けた取り組み
- ②行動障害が生じた方に対する支援



本人の障害特性に合った関わりと環境整備が重要

(アーチル発達障害専門講座 自閉症・行動障害編)

「行動障害の対応と配慮点
～ご本人の視点で～」

講師：仙台市第二自閉症児者相談センター(なないろ)
センター長 門田 優子 氏



⇒まずはアーチルへ相談ください

関係機関との連携で共有したい視点

成人期の「自立」と「社会参加」

相談する力

自立的行動

人への信頼

自己有用感

自己肯定感

安心感

日々の過ごし場での経験の積み重ね

認められた

伝わった

ほめられた

できた

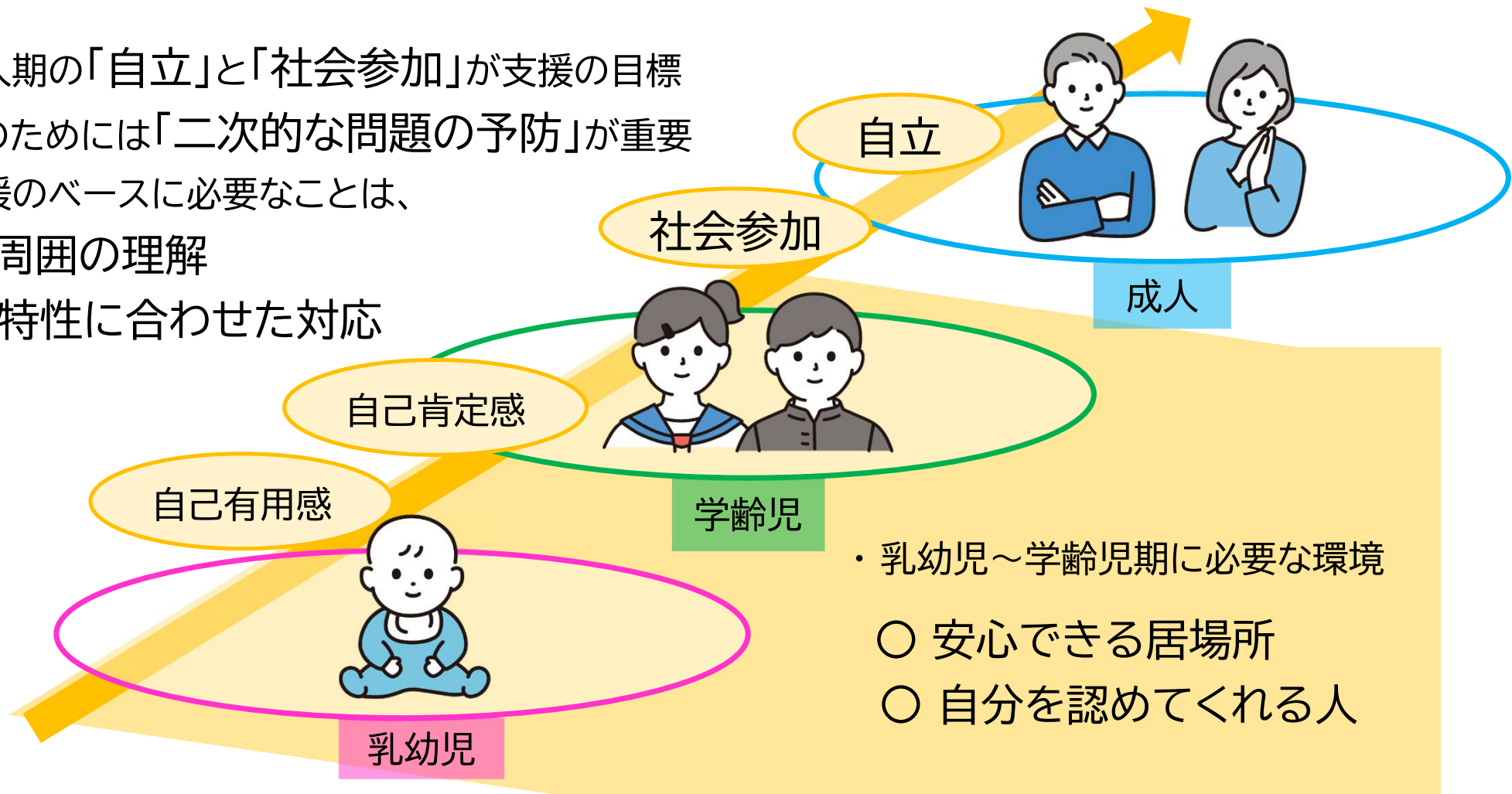


本人への理解・発達特性に合わせた対応



まとめ：将来を見据えた支援の視点

- ・ 成人期の「自立」と「社会参加」が支援の目標
- ・ そのためには「二次的な問題の予防」が重要
- ・ 支援のベースに必要なことは、
 - 周囲の理解
 - 特性に合わせた対応



第一部「アセスメントの基本と実際の支援への活かし方 ～行動の背景を探るポイントを中心に～」

- ① 前編（講話）
- ② 後編（事例）

第二部「アーチルの役割機能と関係機関との連携による地域支援」

- ★ ① 発達相談支援センター「アーチル」とは
- ② アーチル相談の現状と課題について
- ③ 地域での発達支援充実に向けた関係機関との連携

＼他の動画もご覧ください！／



アンケート

ご協力お願いいたします

今後の参考にさせていただきますので、アンケートのご協力をお願いします。
皆様のご意見をお待ちしております。

期間: 令和8年12月31日(木)まで

方法: 右記二次元コード又は概要欄URLより
ご回答ください。

